

平成26年度 事業報告書

学校法人 花園学園

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

「禅のこころ」を育てる

花園学園は明治五年に臨済宗妙心寺の山内に宗門の子弟の教育機関として創設された、「禅のこころ」を建学の精神とする学園であります。創立以来歴史を積み重ねて、今年で142年を迎え、現在では社会の要望に応え広く門戸を開いて、学生数約2,100名の大学、約1,100名の中学・高等学校、約200名の幼稚園を擁する学園に成長して参りました。明治、大正、昭和、平成の四代にわたる日本は、まさに激動の時代でした。幾度の危機を乗り越え、今日を迎えることが出来たのは、その根本において、創立以来、建学の精神を一貫して堅持してきたことによるものであります。

本学園が目的とするのは、単なる知識の獲得のみではなく、あくまでも実践的な「坐禅」を通しての心のふれあいに基づく、一対一の直接的な人格教育であります。しかも、手取り足取り知識を教えるのではなく、自ら解決せしめて、自らに知らしめる創造的な教育であり、これが即ち、禅的訓育と宗教的情操の陶冶に他なりません。

花園大学は、開創当時、臨済宗教団の近代化を図ることを目的とし、その窓口として重要な意義を持っていました。しかし、近代を経て、グローバル化に突入した現在、大学は全く異質の使命を持つこととなりました。今、混迷する社会に、自らの手で新しい価値を構築しようと、人々はもがいています。教育機関としての大学の使命として、そういう時代的要求に正しく対応するべく、努力を続けています。

花園中学・高等学校は、教育方針として、1. 「自主的な判断力を養う」 2. 「連帯意識を育む」 3. 「進取の気風を養う」を掲げています。教育上の実践として、生徒自身の目的意識を持った日々の学習の継続、より高い目標に挑戦する気概と自立心、さらに知徳体のバランスのとれた豊かな人間性を育み、各人の意見や自主性を尊重しつつ、自由に自分自身の目標に向かって、正しく判断し行動することを身につける教育を行っています。

洛西花園幼稚園は、仏教的環境の中で人間形成の基礎が培われ、情操豊かな園児を育むことを目標として、1. 「命を大切にし、感謝する心を育てる」 2. 「落ち着いた生活の中で自ら学び、考える力を育てる」 3. 「たくましく生きる力を育てる」を掲げています。

(2) 学校法人の沿革

明治5	般若林(三年制)を創立、明治31年に普通学林と称する
明治40	花園学院と改称して、中学部・高等部に分ける
昭和23	学制改革により臨済学院中学部を花園高等学校に改制
昭和24	花園大学設立 仏教学部仏教学科設置
昭和26	財団法人妙心寺派教学財団を学校法人妙心寺派教学団に組織変更
昭和27	花園高等学校 商業科を新設
昭和39	花園大学 仏教福祉学科設置
昭和41	学校法人妙心寺派教学団から学校法人花園学園に改称 花園大学 文学部設置
昭和43	花園高等学校 自動車科を新設(平成10年4月より自動車工学科)
昭和52	花園大学 総合移転
昭和53	花園高等学校 普通科に特別進学コースを新設
昭和55	花園大学 文学専攻科設置
昭和56	洛西花園幼稚園設置
昭和57	高等学校寄宿舎(雪江寮)閉寮
昭和61	花園大学 国際禅学研究所設置
昭和62	花園大学 中国蘇州大学と学術交流協定締結
平成4	花園大学 社会福祉学部設置 社会福祉学科
平成6	花園大学 大学院文学研究科設置
平成7	花園高等学校 商業科を募集停止
平成10	花園大学 大学院社会福祉学研究科設置 花園大学 韓国東國大学との学術交流協定締結 花園大学 台湾佛学研究所と学術交流協定締結
平成12	花園大学 介護福祉士養成施設指定[厚生省] 花園大学 歴史博物館設置 花園大学 大学院文学研究科博士(後期)課程設置 花園大学 社会福祉学部社会福祉学科福祉介護コース開設
平成14	花園大学 社会福祉学部福祉心理学科設置 花園大学 文学部仏教学科を国際禅学科に名称変更

平成15	花園高等学校 商業科を廃止 花園中学校設置
平成18	花園高等学校 自動車工学科を募集停止
平成19	花園大学 社会福祉学部福祉心理学科を臨床心理学科に名称変更 花園大学 臨床心理士養成課程（第1種）指定
平成20	花園大学 文学部文化遺産学科設置 花園大学 文学部創造表現学科設置 花園大学 文学部史学科を日本史学科に名称変更 花園大学 文学部国文学科を日本文学科に名称変更
平成21	花園大学 社会福祉学部児童福祉学科設置
平成22	生涯学習センターを開講
平成24	花園学園創立150周年記念事業準備室設置
平成25	花園大学 文学部国際禅学科を仏教学科に名称変更 花園学園 創立150周年記念事業事務棟（又女館）設置

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
花園大学	昭和24年2月	文学部
		社会福祉学部
		文学研究科
		社会福祉学研究科
花園高等学校	昭和23年4月	全日制（普通科）
花園中学校	平成15年4月	
洛西花園幼稚園	昭和56年4月	

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(単位：人)

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数
花園大学	文学部	285	1,140	883
	社会福祉学部	240	960	1,091
	文学研究科	17	36	34
	社会福祉学研究科	10	20	13
花園高等学校		320	960	1,013
花園中学校		80	240	98
洛西花園幼稚園		100	280	226
合計		1,052	3,636	3,358

(平成26年5月1日現在)

(5) 役員の概要

理 事 長	栗原 正雄
常 務 理 事	山本 文匡・堀尾 和良・細川 景一・後藤 慶裕・福田 篤・松井 宗益 宮川 庸男
理 事	丹治 光浩・清水 良正・小山内 定代・土方 弘道・本間 愛教
監 事	松枝 尚哉・水谷 滋

(平成26年5月1日現在)

(6) 教職員の概要

(単位：人)

区分		法人本部	花園大学	花園高等学校	花園中学校	洛西花園幼稚園	計
教員	本務	0	81	67	11	23	182
	兼務	0	287	29	1	0	317
職員	本務	5	53	14	1	1	74
	兼務	0	0	4	0	1	5

(平成26年5月1日現在)

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

<法人本部>

- ・ 各設置校の活性化を行い、到達点として「建学の精神の具現化」を目標とする。
- ・ 花園学園改革推進委員会答申書による学園改革の実施。
- ・ 花園学園150周年記念事業準備委員会の開催。

<大学部>

学則第一条に謳う「高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする」という建学の精神を具現化する事業目標を高等教育の場において遂行するため、厳しい環境変化、社会変化を視野に入れながら、現行の施設・設備、組織、制度、運用等を総合的に点検検証し、経営基盤の確立、強化を目標とする。

<中学・高校部>

1. 生徒に独習する力を身につけさせるため質の高い教育を提供する。教育機関として、高い評価と信頼を得るため教職員の資質向上に努める。
2. 禅の精神を教育の柱と定めて教育全般を構築し、学習効果を高め、生徒の自己確立を促す。
3. 健全な財政運営に努める中で、150周年を見据えて中長期的な計画を立案し運用を図る。

<幼稚園部>

基本的な生活習慣の形成

- ・ 保育者や他の幼児との係りの中で自ら生活に必要な習慣を身につけていけるような活動の展開
- ・ 健康や安全に気を付けることや、基本的な生活習慣を身に付けていくことの大切さに気付かせ自立性を育てる

子育て支援の充実

- ・ みんなの幼稚園の充実を図る
- ・ 地域の未就園児親子が集団の場に参加できる場を持つ
- ・ 預り保育の推進

魅力ある保育者の養成

- ・ 幼稚園教育要領の共通理解を深め、園内研修の充実を図る。
- ・ 配慮を要する園児への対応について研修を深めるとともに、保育者同士の共通理解を図る。

安全・安心の幼稚園づくり

- ・ 防犯、防火、防災体制の充実。
- ・ 危機管理体制の確立。
- ・ 危機を未然に防止するとともに、発生した危機に対して早急に適切な対応を行うことが出来るよう、訓練の実施。命の大切さを知る。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

<法人本部>

1. 花園学園改革推進委員会答申書を受けての具体的改革推進

花園学園改革推進委員会答申書を参考に、「学園長制の導入・就任」を実施した。花園大学の入学定員の見直し並びに学科の定員削減・募集停止について複数案を提示し、理事会・評議員会で議論を重ねた。

2. 花園学園創立150周年記念事業準備室及び花園学園創立150周年記念事業準備委員会の運営

妙心寺派前河野太通管長インタビューの編集作業・150周年記念誌の資料収集。記念事業準備委員会を開催し（月1回）、具体的な事業に向けて議論を重ねた。

3. 内部監査の実施

花園大学総務課に内部監査を実施した。会計処理の適正について、会計伝票とその他の徴表との符合を精査した。

4. 設置校との連携強化

150周年を7年後に控え、「教育の基本に禅を」という理念を各設置校と連携して具体化している

5. 宗教チームによる『建学の精神』の具現化

中高新生を対象とした坐禅指導や、全高校生に宗教講話の授業を行った。

6. 学園PRの強化（学園HPの充実）

新着情報や生涯学習センターの情報発信や役員一覧等、情報の充実並びに公開の一層の充実を図った。

7. 生涯学習センターの充実と地域社会への発信

「禅を味わう」と題して6回にわたり、いす坐禅の体験と共に「禅語」を考える講座を実施した。子どもたちに読み聞かせる「民話（昔話）」の講座を2回にわたり行った。

<大学部>

1. 建学の精神の具現化のために禅仏教教育センターの事業推進と学内諸機関並びに学外諸機関との連携を強化し活性化を図る

平成26年度も学長講座として年間30回の授業を行い、公開講義を実施し多くの聴衆を集めた一方、行事としては早朝坐禅の実施や新生、新入教職員の本山参拝、創立記念日の本山参拝、大学摂心（坐禅会）などを実施し、前年度に比べ参加者増となった。

2. 認証評価による指摘事項並びに参考意見を重視し、法令順守と共に教育体制改編とその目的達成に尽力し評価を行う

認証評価の指摘事項並びに参考意見に対し、規程や制度の見直しを行い、平成26年度内において概ねの改善はなされたと評価する。

3. 財務状況改善のため、人件費をはじめ、各種制度を見直し、併せて既存学科の存続の可否並びに再生策の検討

財務状況の改善のため、事務局の兼務手当の廃止や賞与減額などの人件費の見直しを行う一方、契約事務職員制度による積極的人材確保を行った。また、資産運用による収入増や設備等の更新計画の見直しにより、当年度消費支出超過額は、予算比で大幅な縮減となった。また、既存学科の再編を平成27年度に実施する事を見込み、カリキュラムの開講科目数の1割削減を行った。

4. 修学資金援助、学修並びに学生生活の支援、進路確保・拡充のための支援体制の充実とそのための研修並びに制度構築に取り組む

新規修学資金援助は、学費減免と奨学金制度への切り替えについて議論を重ねた。支援体制としては、従来の学生支援室をはじめとして取り組んだ結果、退学・除籍者は微減する結果となった。

5. 志願者の質・量的改善を計るための募集活動、試験方法、広報方法等の検討と改善に取り組む

今年度は昨年度末よりスタートさせた6つの入試プロジェクトチームによりその任にあたったが、定量的目標である、年内入試で8割、年明け入試で2割の学生確保に至らなかった。

6. 文部科学省エコキャンパス補助事業による教室、自適館の空調設備の更新

今年度は文部科学省のエコキャンパス推進事業による教室及び自適館の空調設備の更新は、計画の見直しとなった。

7. 総合移転以来の経年劣化による老朽化した学内インフラの整備

1997年の総合移転以来の学内インフラの劣化に対応し、上下水道の更新、また、共同溝工事では強電、弱電（電話・自火報・放送）、情報などのインフラ整備を行い、その埋設、修復にあわせて学内インターロッキング敷設を行い景観の改善にも努めた。

8. 西小路拡幅後の大学アクセスの環境整備並びにグラウンドプランを作成

西小路拡幅によりアクセスは改善されたものの、環境整備に関わり教学面・施設面で大きな変化が見込まれるので、この件に関しては状況を見据えて行うこととした。

9. 150周年を見据えた大学の中長期計画を構築

学内の学科再編や今後の規模的な確定をまっけて、来るべき2022年を目標に計画の策定を行うこととした。

< 中学・高校部 >

1. 教育事業については、各コースが建学の精神「禅のこころ」を基本とし、その特長を生かしながら、生徒個々の自主性の尊重・進路保障を重点課題として取り組んだ。また、国際交流を推進し、アメリカ、オーストラリア、台湾から留学生を受け入れ、本校生はオーストラリアでホームステイをしながら、授業に参加した。
2. 学校運営については、社会から選ばれる学校をめざし、本年度も、京都市教育委員会統括指導主事、京都教育大学教授を本校に迎え内部からの改革、特に中学の改革のスピードアップを図った。グローバル教育準備室を立ち上げ、来年度から募集活動をおこなう新しい中高一貫コース（スーパーグローバルZEN、ディスカバリー）の準備に入った。また、役員による海外研修先の視察を2回行った。京都府立高校の入試制度が大きく変わる中で、きめ細かい広報活動を行い、当初の予定通りの学則定員以上を確保することができた。今後この結果を詳細に分析し、今年度の結果に甘んじることなく更に受験生に支持される募集活動を行う。
3. 教育環境整備については、昨年度新築したプレハブ教室（7クラス）の付帯工事（生徒駐輪場、クラブボックス、倉庫）の整備をおこなった。その他、災害時の帰宅困難生徒に対応するため、災害用常備食、緊急備品の整備をおこなった。また、ICT教育を実施するにあたり、検討委員会を立ち上げ、担当教諭よりタブレットによる研究が開始された。

< 幼稚園部 >

1. 園児と担任ができるだけ多くの時間が過ごせるよう（教育効果の向上）送迎バスに乗務する教員をパートで採用し、業務の効率化を図った。また、外人講師を採用し、英会話で楽しく保育する時間を設けた。来年度以降、更に充実をはかっていきたい。
2. 水はけの改善の為園庭の全面改修工事を実施し、雨が降った翌日も水たまりができず、子どもたちがのびのびと遊べる園庭となった。今後も安心・安全の幼稚園作りに取り組んでいきたい。
3. 園舎の照明器具の老朽化のため、全館LED照明器具に取り換えた。これにより、光熱水費の軽減にもつながった。

3. 財務の概要

(1) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
固定資産	27,403,960	27,581,504	25,699,954	26,008,676	25,094,857
流動資産	4,061,697	3,801,732	5,903,362	5,832,991	6,870,302
資産の部合計	31,465,657	31,383,237	31,603,317	31,841,668	31,965,159
固定負債	1,043,145	1,166,291	1,102,455	1,123,363	1,083,581
流動負債	923,356	596,779	663,608	649,519	611,339
負債の部合計	1,966,502	1,763,071	1,766,064	1,772,883	1,694,921
基本金の部合計	27,195,493	27,530,227	27,768,252	28,130,235	28,479,747
消費収支差額の部合計	2,303,662	2,089,938	2,069,000	1,938,549	1,790,491
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	31,465,657	31,383,237	31,603,317	31,841,668	31,965,159

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
学生生徒等納付金収入	2,894,681	2,941,755	2,927,132	3,000,546	2,922,504
手数料収入	73,012	69,973	75,986	77,040	78,813
寄付金収入	52,746	54,031	58,170	23,767	45,821
補助金収入	695,216	751,122	822,350	928,902	852,069
資産運用収入	130,593	145,985	112,891	98,559	101,445
資産売却収入	5,661,847	6,798,930	5,097,170	3,610,133	4,452,981
事業収入	6,849	7,677	5,824	4,555	5,188
雑収入	404,701	99,504	48,442	109,216	95,898
借入金等収入	450,000	0	0	70,000	0
前受金収入	460,129	406,697	465,592	453,210	439,407
その他の収入	5,987,507	1,747,592	1,715,214	1,906,331	3,495,408
資金収入調整勘定	△ 785,689	△ 608,211	△ 503,181	△ 720,324	△ 635,427
前年度繰越支払資金	5,008,776	3,699,763	3,640,984	5,792,287	5,559,758
収入の部合計	21,040,372	16,114,817	14,466,577	15,354,226	17,413,869

支出の部	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
人件費支出	2,874,550	2,291,691	2,250,555	2,394,935	2,310,954
教育研究経費支出	815,999	843,202	898,057	975,987	1,021,930
管理経費支出	333,855	300,253	326,465	363,850	328,976
借入金等利息支出	7,349	7,368	6,376	5,697	4,930
借入金等返済支出	86,100	316,100	66,100	66,100	94,768
施設関係支出	107,715	232,378	124,091	575,297	432,197
設備関係支出	92,897	182,496	142,453	199,071	75,162
資産運用支出	12,922,068	8,197,066	4,786,441	5,123,794	6,388,898
その他の支出	140,638	149,123	126,827	139,006	126,442
資金支出調整勘定	△ 40,564	△ 45,845	△ 53,078	△ 49,271	△ 40,381
次年度繰越支払資金	3,699,762	3,640,984	5,792,287	5,559,758	6,669,989
支出の部合計	21,040,372	16,114,817	14,466,577	15,354,226	17,413,869

イ) 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
学生生徒等納付金	2,894,681	2,941,754	2,927,132	3,000,546	2,922,504
手数料	73,012	69,973	75,986	77,040	78,813
寄付金	54,516	54,893	72,853	30,585	47,678
補助金	695,216	751,122	822,350	928,902	852,069
資産運用収入	130,593	145,985	112,891	98,559	101,445
資産売却差額	102,334	32,002	24,301	185,755	249,961
事業収入	6,849	7,677	5,824	4,555	5,188
雑収入	68,755	89,017	27,580	51,395	74,902
帰属収入合計	4,025,959	4,092,424	4,068,918	4,377,340	4,332,564
基本金組入額合計	△ 154,756	△ 334,734	△ 238,024	△ 361,982	△ 349,512
消費収入の部合計	3,871,203	3,757,690	3,830,894	4,015,357	3,983,052

消費支出の部	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
人件費	2,400,924	2,475,204	2,236,710	2,349,625	2,330,380
教育研究経費	1,149,227	1,155,699	1,224,427	1,293,332	1,387,443
管理経費	361,395	328,133	356,993	397,396	374,345
借入金等利息	7,349	7,368	6,379	5,697	4,930
資産処分差額	94,255	3,767	26,639	99,509	34,009
徴収不能額	0	1,242	684	247	0
消費支出の部合計	4,013,152	3,971,414	3,851,832	4,145,808	4,131,110
当年度消費収支超過額	△ 141,948	△ 213,724	△ 20,938	△ 130,451	△ 148,057
前年度繰越消費収支超過額	2,445,610	2,303,662	2,089,938	2,069,000	1,938,549
翌年度繰越消費収支超過額	2,303,662	2,089,939	2,069,000	1,938,549	1,790,491

(2) 主な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	0.3	3.0	5.3	5.3	4.6
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	103.7	105.7	100.5	103.2	103.7
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	71.9	71.9	71.9	68.5	67.5
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	59.6	60.5	55.0	53.7	53.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.5	28.2	30.1	29.5	32.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.0	8.0	8.8	9.1	8.6
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	439.9	637.0	889.6	898.0	1123.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	6.7	6.0	5.9	5.9	5.6
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	93.8	94.4	94.4	94.4	94.7